

環境計画学科環境社会計画専攻の一年

仁連 孝昭
環境計画学科長
環境社会計画専攻主任

2006(平成 18)年度は 42 名の新生を受け入れた。昨年の新入生数より 1 名上回っている。学生の休学は通年休学 2 名、前期休学 2 名、後期休学 3 名であり、経済的理由による休学者が増えてきている。なお今年度の後期から杉山優太君が Michigan Technological University に 1 年間留学することとなった。環境社会計画専攻では、3 回生後期に卒業研究のために研究室への配属を行っている。研究室に配属される対象はその年度内に 3 回生までに課せられている履修条件を満たす見込みのある学生であるが、今年度は 47 名の学生がそれぞれ研究室に配属され、卒業論文作成に向けてスタートをきった。また本年度卒業論文に取り組んだ学生は 40 名であり、全員が無事卒業できることをめざしたい。(この文章を書いている時点ではまだ卒業判定が終わっていないので、このような書き方をしている。)

公立大学法人化にともなって大学の経営主体として理事会が組織され、土屋正春教授が環境社会計画専攻教授を退任し 2006 年 4 月 1 日理事に就任した。土屋教授の後任として 10 月 1 日に磯田尚子助教授が赴任された。また 4 月 1 日に香川雄一講師が着任した。本年度後期から、文部省「地域再生人材創出拠点の形成」プログラムとして大学院博士前期課程の教育コースの地

域再生学座「近江環人」が設けられたことにもない、このコースを主に担当する鶴飼修助教授が 11 月 1 日に赴任された。磯田尚子助教授は学部では「環境法 I」「環境法 II」「環境倫理学」大学院では「環境政策運営論」を担当することとなった。香川雄一講師は学部では「地域調査法」「地域環境政策論」を担当することとなった。鶴飼修助教授は地域再生学座の「コミュニティマネジメント特論」「地域診断法特論」を担当し、学部では「市民参加論」の一部を担当することとなった。また、近藤隆二郎助教授が 7 月 23 日から 10 月 21 日までオーロヴィル・エコビレッジ(インド)に長期研修に出かけた。

環境社会計画専攻では、平成 20 年度に専攻を学科へ昇格させる予定をしており、また平成 19 年度から生物資源管理学科の富岡昌雄教授、高橋卓也講師の移籍を予定している。それに対応するため、新学科のカリキュラム体系についての議論を進めてきた。新学科では環境マネジメント系の科目群を充実させるとともに、環境政策系の科目に地球環境政策論を新たに設けるなどのカリキュラムの充実を行い、新学科開設に先立ち平成 19 年度より新しいカリキュラムを実施することとした。かなり大幅なカリキュラム変更となったが、学生の学習意欲をそそる内容にしていきたい。